

天竜川流域まかしよう宣言 ～水窪から知る、伝える、育てる～ (概要版)



2025年12月1日
ローカルコープ検討委員一同

「天竜川流域まかしょう宣言」の位置づけ

本宣言は、令和5年から7年にかけて実施された「自分ごと化会議」の参加者を中心に、浜松市および株式会社paramitaとの協働により策定されたものであり、これから水窪における取り組みの方向性を示すものです。

本宣言の策定過程では、計8回の自分ごと化会議を軸に、個人への聞き取り調査や、地域外企業へのインタビュー、20を超える地域団体へのヒアリングを実施しました。さらに、有志による他地域の視察や有識者を招いたフィールドワークなどを通じて、多様な知見や外部の視点も積極的に取り入れてきました。

「まかしょう」とは、「私たちに任せて」を意味する水窪の方言。水窪に住み、関わる私たち自身が、天竜川流域全体を自分ごと化して考え、行動していくことを宣言することで、地域内外のより多くの人たちの参加を呼びかける意味を込めています。

本書は、水窪という地域の現在地を見つめ直し、過去から未来への道筋未来への道筋をともに描くための羅針盤です。異なる立場や世代を超えて対話を重ね、学び合いながら、水窪のこれからを共にかたちづくっていくための共有の土台となることを目指しています。

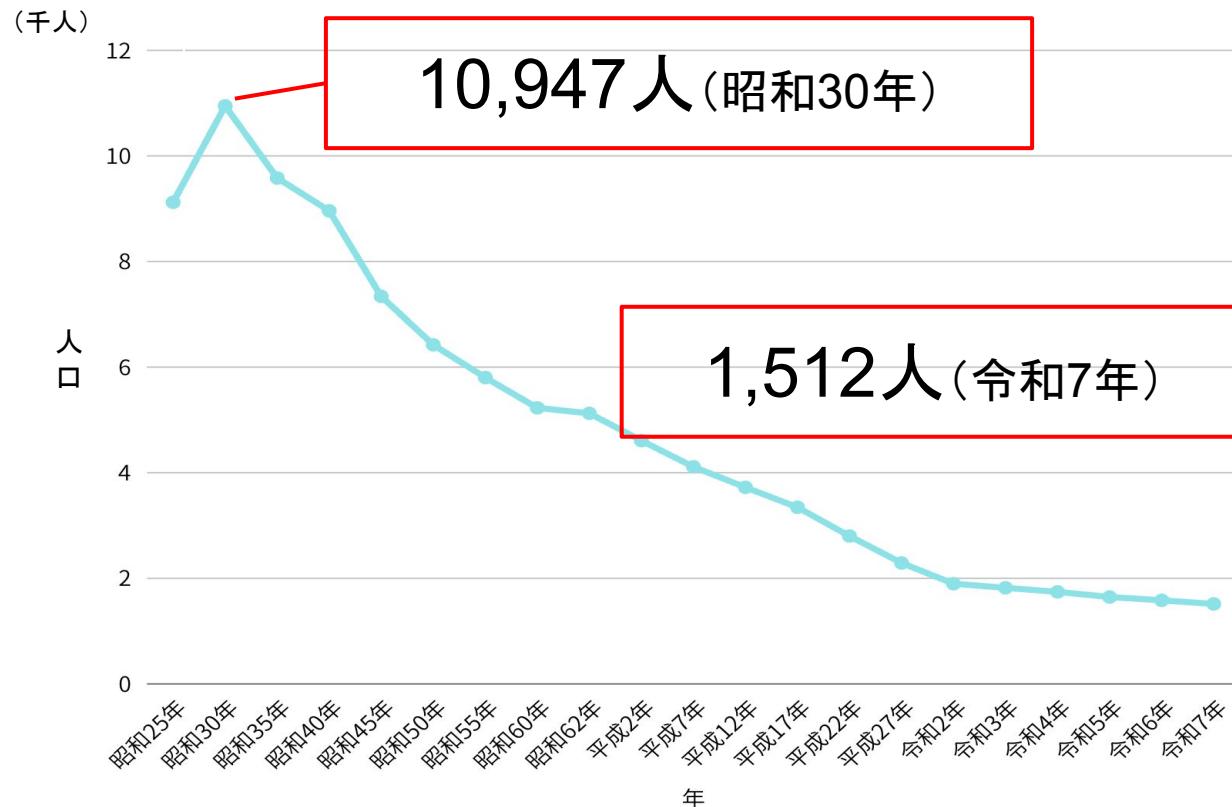
ローカルコープ検討委員一同(順不同)

高木 友吉	山口 延継	石本 勝久	守屋 千づる	向井 一美	守屋 正次郎	高木 俊二	坂口 京子
道下 武彦	榎 多賀夫	榎 洋子	平澤 文江	田中 真紀	片倉 真也	三石 卓	丸山 義仁
宇佐美 達也	宇佐美 聖子	久保敷 由加里	高坂 フランチエスコ太陽	前田 紘希	三輪 隼也	平澤 遼馬	田中 千陽
柳田 温	高木 圏乃	坂本 貞夫	井上 保典	守屋 銀治	中 政俊	小松 裕勤	原 邦司
高木 一徳	北井 利政	小栗 志介	山下 順子	湯前 良一	富士川 凜太郎	鈴木 光星	山下 梨音
耳塚 均	寺田 英忠	坂口 心菜	坂口 愛心	浜松市水窪支所	田中 佑典 (株式会社paramita)	瀧口 幸恵 (株式会社paramita)	尾中 健人 (一般社団法人構想日本)
原 大介 (コーディネーター)	大西 翔 (コーディネーター)	他14名					

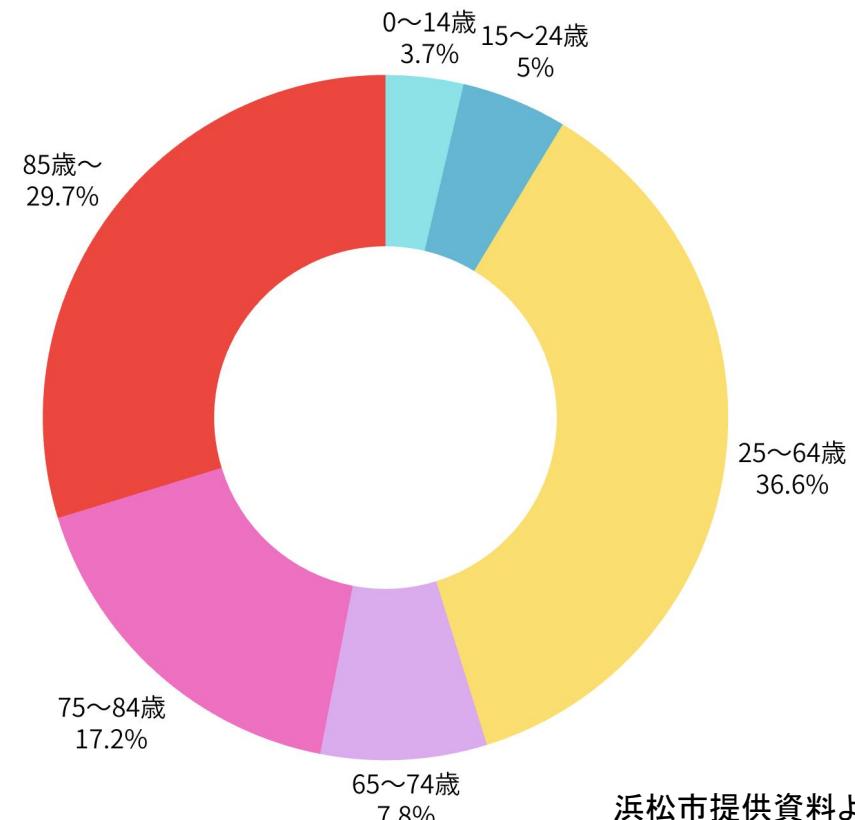
水窪のこれから

- ・ 水窪における現在の人口は1,512人(令和7年10月1日現在)。ピーク時の10,947人(昭和30年)から約85%減少している。
- ・ 特に年少人口の減少は深刻であり、0~14歳の子どもが人口全体に占める割合はわずか3%。地域社会の将来を担う次世代の著しい減少を示しており、人口構成の極端な高齢化が進行している。

水窪町人口推移



水窪町年齢別人口構成比



ここに至るまでの軌跡

- こうした問題意識から、令和5年度より、一般社団法人構想日本の協力の下、「自分ごと化会議」を開催。高校生以上80代まで、無作為抽出によって選ばれた住民と、水窪の将来や地域の課題、自分ごととして取り組んでいくことを議論してきた。これまで、令和5年度は4回、令和6年度、7年度はそれぞれ2回の計8回を開催し、延べ234人が参加した。
- 「自分ごと化会議」を通じて、地域の目指す方向性や今後の取組、住民自らどのように関わっていくかを議論し、見える化させてきた。



天竜川流域まかしょ宣言～水窪から知る、伝える、育てる～

私たちは、北遠の果て、天竜川水系の上流域に暮らしています。急峻な山々と清らかな水に抱かれ、互いに支え合い、自然とつながりながら生きてきました。

しかし、林業の衰退や人口減少の深刻化により、かつてできていたことが難しくなり、地域の未来を考える場も少なくなってしまいました。だからこそ、私たちは挑戦します。

行政ばかりに頼るのでなく、地域をよく知る自分たちの手で地域づくりを進めます。第2の自治とも言える『Local Coop』という考え方には賛同し、その仕組みを活用して、ここに暮らし続けられる地域をつくります。ここに、私たちが大切にしたい4つの誓いを掲げます。

① 自然とともに生きる

天竜川水系の上流域から山と水を守り、連日報じられる気候変動時代を生き抜く知恵を育てます。

② つながりを広げて学び合う

「水窪が好き、面白い、また来たい」という人や企業と協力し、外からの力も受け入れながら、学び合い、新しい価値を生み出します。

③ 宝を活かし受け継ぐ

在来種、伝統料理、街道の風景、山々、お祭り——先人の営みを時代に合わせて整え、未来へ受け継ぎます。

④ 自分ごととして動き、働く

一人ひとりが水窪のことをさらに知り、良さを伝え、自分に何ができるかを問い合わせ続け、行動します。

事業の全体像

水窪が体現する「学び合いの場」

滞在場所の整備

堆肥の地域循環

水資源との関わり合いの再生

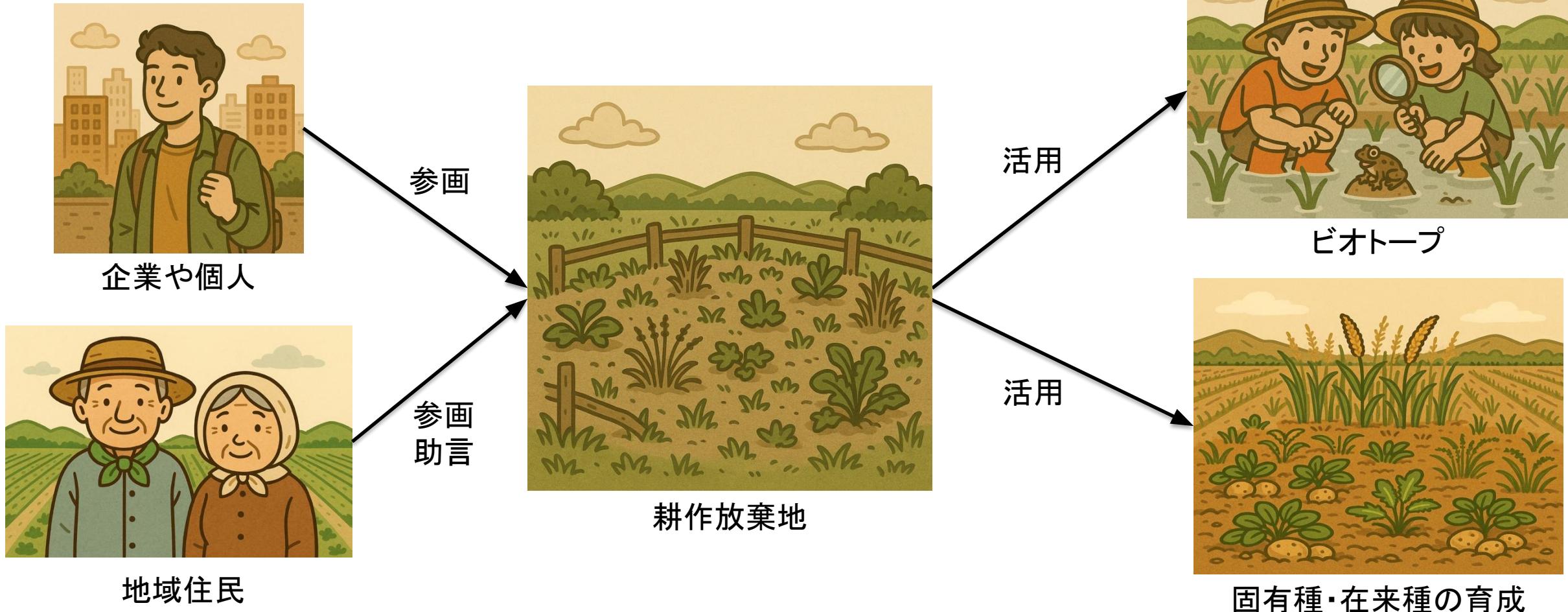
小規模分散型農業

共同作業場



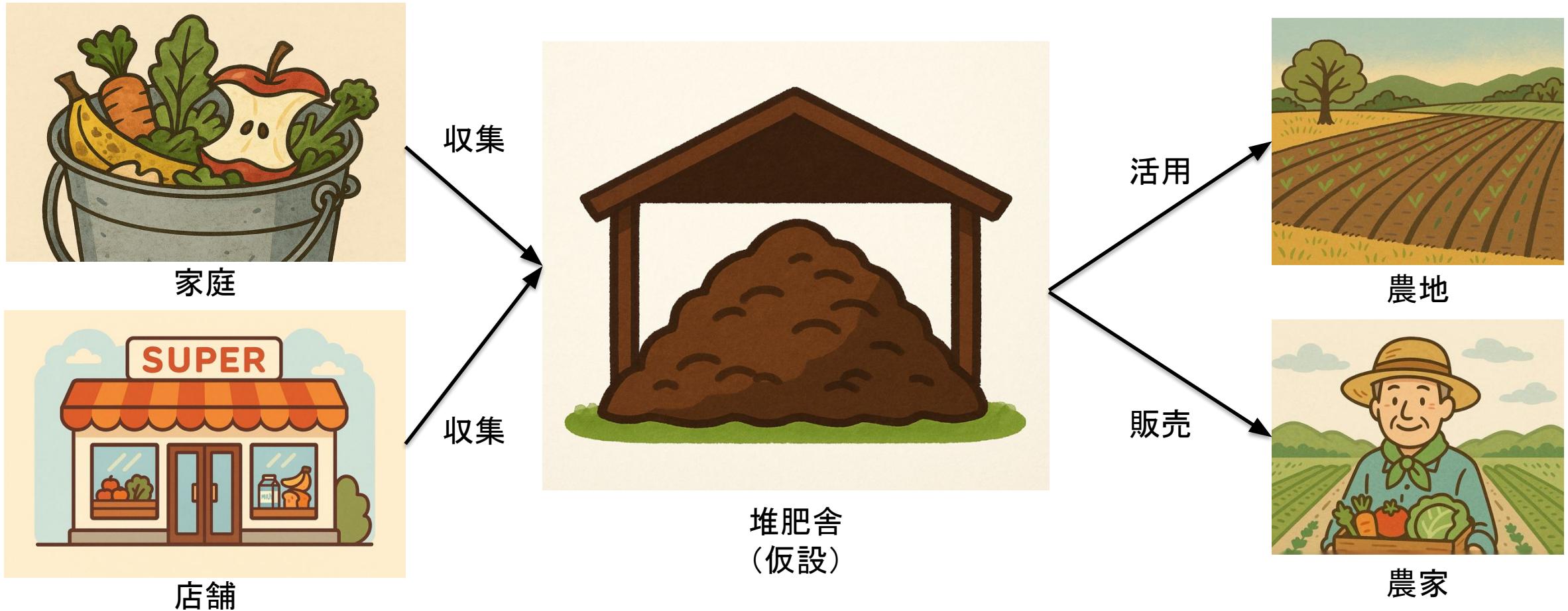
小規模分散型農業の推進

- ・水窪に点在する小規模な耕作放棄地を活用し、関係人口を巻き込みながら在来種の栽培などの農作業を進める。
- ・また、農産物の生産だけではなく、子どもが水遊びできるビオトープなど、自然や水、動植物と触れ合える場として整備することで、地域に開かれた豊かな景観と交流の場を創出する。



堆肥の地域循環

- ・水窪地区内に仮設の堆肥舎を設置し、生ごみや草刈りで出た葉類の堆肥化に関する実証実験を行う。実証実験の参加者は、生ごみ排出量の多い地域の飲食店やスーパーのほか、複数の家庭を有志で募集する。
- ・堆肥化した生ごみは、遊休農地を活用した小規模農業に活用する。余剰分が生産できた場合は、必要に応じて販売も行い、運営資金の獲得につなげる。



水資源との関わりあいの再生

- ・水窪を子どもや関係人口が水資源に接する機会を持つる場所にしていくために、治水、利水とのバランスを踏まえながら、例えば、草刈りや暗渠の見直し、ビオトープの形成、一部アスファルトから石積への転換などにより、人間と自然の関わり合いを再生できる環境を整える。
- ・また、川と深く関わっている森についても、将来的には山林整備や活用も見据えて事業を検討する。



荒れた小川



河川整備



耕作放棄地



ビオトープの形成



水や生き物とのふれあいの
場の形成

滞在場所・共同作業場づくり

- まちなかの空き家や空き地等を活用し、人々が集いともに作業を行ったり、農作業に必要な機具をレンタルできたりする交流拠点をつくる。また、農作業等に関わる関係人口が滞在できるよう、滞在拠点を整備する。



空き施設・空き家



共同作業場



滞在拠点

自然と共生した持続可能な暮らしを体現する場所の創出

- 企業や関係人口を巻き込みながら、水窪における「学び合い」の象徴的な場所をつくる。圧倒的な自然環境の中、水窪で受け継がれてきた生活の知恵と新たな技術を組み合わせ、自然と共生した持続可能な暮らしを体感することができる小さな空間を整備する。

分類	技術(例)	価値
住まい	板倉工法、石場建て、草屋根、煙抜き付きの囲炉裏	湿気・地震など、風土への適応知
	高断熱設計、3Dプリント建築	快適性と省エネの両立
水利用	湧水・谷水の石枠利用、木製の水路・水船、雨水貯留桶	電力を使わない水利用の知恵
	雨水浄化、コンポストトイレ、グレイウォーター循環	独立した水循環システム
再生可能エネルギー	小水力、バイオマス、ソーラーパネル+蓄電池、風力タービン	地形や環境に応じたエネルギー自給
火・熱源	かまど、薪ストーブ、炭焼き・炭風呂、五右衛門風呂	山林資源の循環利用と文化継承
食料生産・保存	自動水耕栽培、ドローン農業、バイオ炭	高齢化にも対応した自給農
食料保存	天日干し・寒干し、発酵食(漬物、味噌、醤油)、雪室	エネルギーを使わない貯蔵技術
通信インフラ	Starlink、LPWAセンサー ネットワーク	山間地でもネット環境やIoTが可能

Local Coop水窪の組織(役割分担)

